

第2回臨床セミナー・専門医認定研修会 Q&A

臨床セミナー「テーマ：今、歯科接着ができること —もっと接着歯学を臨床に活かそう！—」（2021年12月12日開催）で取り上げられなかったご質問について Q&A を作成しました。演者よりご回答いただきましたので掲載させていただきます。是非、一読いただけますようお願いいたします。

2021年12月20日 学術委員会一同

吉山昌宏 先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯科保存修復学分野 教授）

講演タイトル：根面う蝕抑制材料の新展開

Q1：PRG バリアコートを選択する適応症について教えてください。

回答：根面う蝕の初期にあたる硬化病変または中期にあたるなめし皮様病変が適応症と考えられます。すなわちう窩を形成していない非活動性期の根面う蝕の予防に効果的と思われます。ジーシー社のケアダイনシールドも適応できます。軟化病変のようなう窩を形成した場合にはケアダインレストアが応用できます。

Q2：PRG バリアコートなどのレジン系予防材を使用する際、塗布の頻度はどのくらいが適切とお考えでしょうか。

回答：PRG バリアコートやケアダインシールドの塗布の頻度としては、理想的には2、3か月に一回と考えていますが、半年に一回でも十分の根面う蝕予防効果があると考えています。

Q3：プラーク着くことが問題ではなく、リチャージが大切なことがわかりました。ありがとうございます。

回答：ガラスアイオノマーセメントやケアダインレストアでは充填物からフッ素が十分放出されるのは充填後2、3か月以内と報告されており、半年あるいは1年後にはフッ素がほとんど徐放されないので、フローゲルやフルオール液などを塗布することでフッ素イオンがリチャージされ再度フッ素を徐放することができ根面う蝕抑制効果が発揮できると思います。

前野雅彦 先生（日本歯科大学生命歯学部接着歯科学講座 講師）

講演タイトル：エビデンスに基づくメタル・フリーCAD/CAM 歯冠修復の勘所

Q1：レジン系仮封材を用いる時の分離材は何を推奨しますか？

回答：レジンコーティング後にレジン系仮封材を用いる場合，エタノール清拭を行ったとしても，未重合層残余部と反応して除去が極めて困難となることがあります．このトラブルは仮封材の未反応モノマー量に大きく影響を受けるので，筆積法ではなく練和法によって調整した仮封材を窩洞に填入することで，分離剤を使用せずとも予防が可能です．なお，「念には念を入れて分離剤を使用したい」のであれば，洗浄が容易な水溶性の材料を使用するのが良いでしょう．

坪田有史 先生（東京都開業・副理事長）

講演タイトル：歯科接着を活用した臨床例 ーさらに接着歯学を！ー

Q1：1 | 1欠損ブリッジは保険での症例でしょうか。また、保険であれば請求を教えてください。

回答：お示しした1 | 1欠損のブリッジ症例は保険外治療での補綴です。

保険治療での接着冠ブリッジは1歯欠損のみで算定可能と制限があり、本症例は2歯欠損ですから保険請求できません。

保険治療で補綴するならば、3 | 3 ともに生PZ（3/4冠）、あるいは生PZ（レジン前装金属冠）の形成を行う必要があります。

私見ですが、これは保険における算定要件の不備であり、歯科医師の裁量権を認めた上で算定要件の改善が望まれます。

仮定ですが 3 | 3 ともに生PZ（3/4冠）の場合の保険請求を示します（記載略あり）。

傷病名：2 | C（処置歯），3 | 2 3 C，③②1 | 1②③ 欠損 [Br]

1日目

補診 [Br]	90
浸麻 OA+キシロカイン Ct 1.8mL	0
<u>1 2</u> 生PZ（レジン前装金属冠） [前歯]	796
<u>3 3</u> 生PZ（前接着冠）（3/4冠）	796×2
<u>2 </u> 失PZ（レジン前装金属冠） [前歯]	636
<u>1 2</u> 生PZ Br 支台歯形成加算（前装）	20
<u>3 3</u> 生PZ Br 支台歯形成加算（3/4冠）	20
<u>2 </u> 失PZ Br 支台歯形成加算（前装）	20
連imp [Br 6歯以上]（シリコーン系）	334
BT [Br 6歯以上]（シリコーン系）	150
歯冠補綴時色調採得検査	10
リテイナー [6歯以上]	300
仮着セメント [リテイナー]	4×4

2日目（試適を行う場合）

試適 [Br 6 歯以上]	80
リテーナー [6 歯以上]	0
仮着セメント [リテーナー]	4×4

3日目（仮着を行う場合）

仮着 [Br 6 歯以上]	80
仮着セメント [Br]	4×4

4日目

<u>2 2</u> 12%金パラ前レジン前装金属冠 set	2,100×2
<u>3 3</u> 12%金パラ前 3/4 冠 set	963×2
12%金パラ前レジン前装金属ポンティック	1,899×2
装着料 [Br 6 歯以上]	300
クラウン・ブリッジ維持管理料 [Br 6 歯以上]	440
装着材料 I レジン系（標準型）	17×4

Q2：1 | 1 欠損の接着ブリッジ症例についてですが、犬歯誘導にすると犬歯のリテーナーが脱離してしまわないかと心配なのですが、咬合調整をどのようにされているかご教示いただけないでしょうか。

回答：本症例は、術前に咬合様式として 5 4 3 | 3 4 でのグループファンクションを確認しています。フェイスボウトランスファー、側方チャックバイトを採得していませんが、担当される歯科技工士に術前の咬合様式を技工指示書に記載し、製作依頼を行なっています。

試適・調整時に術前と同様な咬合様式を目指して調整を行なっています。したがって、犬歯のガイド（メタル上）もありますが、犬歯誘導咬合でなくグループファンクションになっています。

もし、グループファンクションでなく犬歯誘導咬合とし、犬歯のリテーナーのみでガイドさせるならば、ご質問にあるように犬歯のリテーナーの脱離のリスクはグループファンクションの場合と比較するならば高い可能性があります。その場合、接着 Br のリテーナー形成を行う際、リテーナー形成に加えグループ形成を行うなど、補助的保持形態を付与する症例も想定することができます。